

小学生の頃はどのような子どもでもしたか

我々の世代はゲーム機が存在しなかったもので、下校したら外に出て遊ぶ毎日でした。休みの日も外に出て遊んでいたもので、家にいることはあまりなかったかもしれません。私が育った地域には、川もあり、山もあったので、虫取りをしたり、木登りをしたりして遊んでいました。ただ、運動系があまり得意ではなかったのよと誘われてもなかなか一緒にはやらないおとなしい子どもでした。

小学生の頃は、絵を描いたり、ものを作ったりすることが好きだったのよ、図工が好きでした。走るのが遅かったのよ、体育は苦手でした。

教員を志したきっかけを教えてください

最初から教員の仕事が良いのではないかと話してはなかったんですが、母親から先生の仕事をしたかっ

たというような思いを聞いたことが一つあります。また、小学校高学年の時に担任をしてくれた先生の姿というのがあります。そういう母親や小学校の先生の影響があったのかなと思います。

教員の免許は、小学校の全教科を持っていきます。大学進学の際に余計に勉強したもので(笑)。高校生の時は社会の先生を考えていましたが、教員になってからはいろいろな教科の研究をしました。一番長くやっていたのは、生活科・総合的な学習の時間の研究でしたね。体育科もやりました。

六小の特色を教えてください

昨年度、六小に着任をし、とにかく素直で無邪気で穏やかな子どもが非常に多いと感じます。それから、地域性としては、多摩川があり、住宅があり、農地がありというところで、地域の方々に様々な場面でサポートをいただいています。例えば、農家の方には、1年生や2年生の野菜栽培のゲ

ストティーチャーとしてお越しいただいています。また、本校は、令和3年度が創立50周年という節目ですが、それに対する地域の皆様のバックアップが本当に素晴らしいと感じます。50周年に際して、どのよう

にしたら児童に喜んでもらえるか、それを柔軟な発想でイメージを膨らませて考えていただき、学校と調整を図りながら、様々な企画を練っていただきました。その結果、50周年記念のプレイベントとして子ども

たちに思いきり楽しんでもらう趣旨のイベントが開催され、多くの子どもたちが参加しました。イベントの中では、ワークショップなどをを行い、最後には花火を打ち上げました。コロナ禍で様々な制約がある中、実行委員会、PTAをはじめとした地域の皆様の御協力のもと、非常に充実した内容で、あらためて地域力の強さを感じました。

六小をどのような学校にしていきたいか

当たり前のことではあります、まずは、ケガなく、事故なく、友達との関わりを大切にしながら、充実した学校生活を送れるようにしたいです。そのうえで、子どもたちが思う様々な疑問を前向きに探究していくような、自ら学びを深めていける子どもに育ててほしいと思います。地域の特性を活かし、六小に通って本当に良かったと子どもたちが思える学校にしたいです。



13代目の杉校長

令和2年度に六小の校長に就任。以来、子どもたちを温かく見守り続けています。開校50周年を迎えた今年度は、六小をまとめ、保護者や地域の方々とともに、子どもたちの成長を支援する役割を担ってまいります。

